

「誰かのため」の演劇を

つくる意義、楽しさを感じています。



演劇の魅力

出会い

地元福岡から愛知県立芸術大学へ進学するも仕送りはなく、求人サイトを眺めていた時に目に留まったものが「エキストラ」のアルバイトでした。当時は演技経験ゼロ、興味本位でタレント事務所に登録し、仕事がないまま1年が過ぎようとしていたころ、事務所から「タレント契約のオーディションを受けませんか」という電話が。やはり興味本位で受けに行き、簡単な台詞を読んで、その場で合格。契約書類には「レッスン料2年で50万円」！今思うとなぜそうなったのか：結局ローンを組んで事務所と契約を交わし、芸能の道へ足を踏み入れたのでした。

そんな詐欺まがいの事務所でしたが、私が所属している演劇団体 Room 16のメンバーとはこの事務所でお会っています(事務所は倒産しました)。元々私は内弁慶で一人で絵を描くことが好きで、学生時代も卓球部、という完全な個人志向でしたが演劇はそうはいきません。役者同士、対スタッフなど連携プレーが物を言うジャンルです。

正直向いていないと思っていました。しかしいざ舞台上に立ち、最後にカーテンコールで拍手をいただいた時、大勢でつくり上げたゆえの喜びは今まで感じたことのないもので、誰かと一緒につくる喜びが活動の糧となっています。

創造スタッフになって

おんぱくへの参加や他ジャンルの創造スタッフとの企画を通して「誰かのため」の演劇をつくる意義、楽しさを感じています。自分がやりたい事だけではなく、場に合わせた作品を製作したり、参加型企画であったり、様々な試みを仕掛けられたらと思っています。

フレンズ企画 7月21日 森のホール

「三遊亭究斗のミュージカル落語」

ピアノ 伊與木慶子

楽しめました！落語と歌とピアノ。

ありがとう、

39(サンキュー)

テンテケテン、チリトテチン〜とお囃子で迎えられたピアノ伴奏付きの不思議な落語会。

まずは緞帳の後ろからご本人の陰の声で前ふりが始まり、お客様のをひとつかみ、拍手の中の登場で二つ目の小唄「一口弁当」が始まりました。

ピンチをチャンスに

アンジェラ・アキの「手紙」拝啓十五の君へ」の歌にのせ、自身のいじめ体験が語られたこの小唄は、平成二十三年文化庁芸術祭



作品に選考されたもので、出会うた謎のおじいさんに「笑いというのは人の心を開くのだ」と教えられ、解決してゆくストーリー。しみみりと、時には劇団四季出身の素敵な歌声にうっとり、究斗ワールドは二つ目の小唄「ありがとうが世界を変える絆39」でも繰り広げられました。

ありがとうございます(サンキュー)を言い続けることで、みんなが幸せになれるというお話や「見上げてごらん、夜の星を」の歌声に、お客様の笑顔の輪はどんどん広がっていきました。

共演のピアノはどんな役割と思っていたら、歌の伴奏以外にも効果音を鳴らしたり、一緒に歌ったり、と八面六臂の大活躍。

締めくくりは忌野清志郎訳の「イマジン」と究斗さん訳の「スタン・バイ・ミー」で、ミュージカル落語らしい幕引きに、会場を去るお客様の表情には「笑顔をくれてありがとう！」の気持ちがあふれ、曇りが続くお天気とは反対に晴れやかなひとときとなりました。

お客様の声

- 楽しかった。歌も良く、声はさすがに劇団四季で鍛えられた感あり。
- 歌では特に「手紙」拝啓 十五の君へ」が良かった。自分でも歌ってみたい。
- スマイルは大切ですね。口角をいつも上げなくては…(笑)。